

巻頭言（2012年9月号）

理事長 新谷友良

オリンピックと字幕

7月の終わりから早朝のオリンピック中継を見る寝不足の日が続きました。始めはどうなることかと思った日本のメダル数も38個で史上最高、なでしこや女子バレーなど女性陣の活躍が目立ちました。それにしても、レスリングの伊調選手や吉田選手のオリンピック3連覇には驚きます。消耗の激しいスポーツで12年間も世界のトップの座を維持するのは大変なこと、体力だけではなく気力をどのように鍛えてきたのか、自分とは別世界ですが大変興味をそそられます。

オリンピック観戦は殆どテレビと新聞、ほんの少しインターネット動画でした。このようなイベントではいつものことですが、オリンピックの中継番組にどの程度字幕が付いていたのか？ 見た範囲の個人的な感想ですが、朝早い生中継に字幕が付いていたので、「字幕を付けることも広がってきたな…」というのが正直な感想です。

しかし、データを確かしたくてNHKのホームページを検索したのですが、「ロンドンオリンピックの中継にあたっての字幕付与について」などといった、NHKの説明は見つかりませんでした。事前に競技日程があるので、「今回のオリンピック中継については、このような体制で臨みます」という事前説明などがあれば、私たちも放送事業者の努力と成果を正當に評価できます。人・もの・金の必要な字幕付与というインフラ整備なので、事実をお互いの立場から評価し合う関係が大切と思います。

字幕付与の時間の問題とは別に、幾つかの問題を感じました。字幕付きの番組でも字幕の配置が悪く、中継画面の重要な動きや大切なデータ表示の上に字幕が重なり、時として字幕をOFFにして見るがありました。また、BSやインターネット動画の字幕付与はずいぶん課題があります。NHKもBSに切り替えると、字幕のない生中継・録画が多く、インターネットではニュース編集したもの以外では字幕付きは殆ど見つけることができませんでした。

2016年のオリンピックはブラジルのリオデジャネイロ、時差は12時間、現地の夜8時は日本の朝8時とのこと。快適な字幕環境で、様々なオリンピック中継を楽しみたいと思います。